An architectural rendering of the Takatsuka Bridge pedestrian space improvement plan. The bridge is shown from an elevated perspective, crossing a wide river. The rendering illustrates a multi-lane pedestrian walkway with various amenities: a dedicated bicycle lane with a green-paved surface and a white railing, a wide paved area for walking, and a red-paved area for jogging. People are depicted walking, jogging, and pushing a stroller. The bridge has a white railing on the river side and a green-paved area on the land side. The background shows a clear sky and some trees on the far bank.

宝塚大橋の歩道空間整備計画(第3回)

兵庫県阪神北県民局宝塚土木事務所

宝塚市

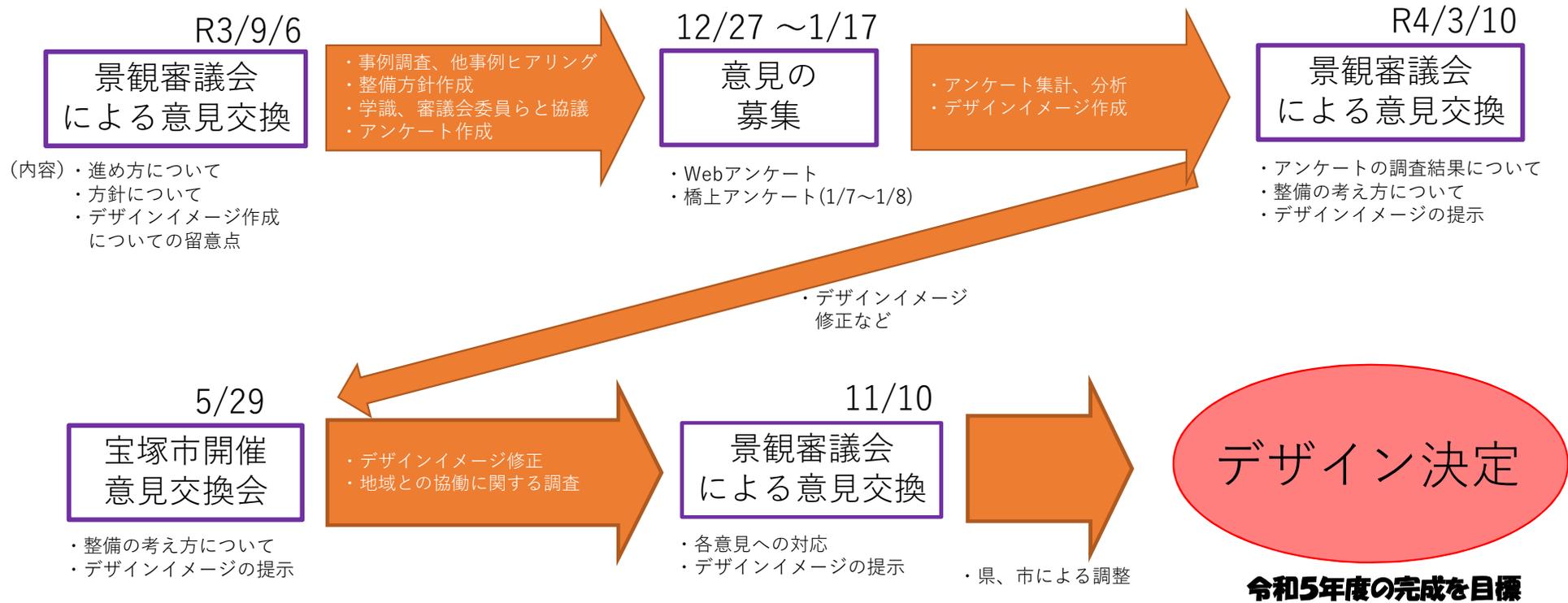
令和4年11月10日

協 議 内 容

- ① スケジュール
- ② 整備の考え方
- ③ 第2回景観審議会意見への対応
地域との協働に関する調査
宝塚市意見交換会意見への対応
- ④ 施設配置の考え方
- ⑤ 歩道空間のデザイン（案）
- ⑥ 植栽のゾーニング、樹種について
- ⑦ 材質・色・形状等について

[参考] 位置図、周辺写真、第2回景観審議会提案デザイン

スケジュール



白紙

■上位計画

●第6次宝塚市総合計画 ～めざすまちの姿～

道路・交通「歩行者や車両にとって安全で快適な道路空間の整備が進むとともに、生活を支える移動手段が確保されている。」

都市景観「北部地域の田園・農村景観、山並みを背景とした自然景観、文化を感じる街並み景観が調和した宝塚らしさを感じる景観が保たれ、魅力を増している。」

観光「既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。」

●宝塚市都市計画マスタープラン原案（2020）～土地利用の方針～

公共空間の柔軟な活用のための取組により歩行者の回遊性や滞在性の向上を図り、新たな魅力づくりと都市型観光商業地としてのポテンシャル向上に努める。

●阪神地域都市計画区域マスタープラン（2021）

都市施設に関する方針として、「ひょうごインフラ・メンテナンス 10 箇年計画」等に基づき計画的な都市基盤施設の長寿命化に向けた修繕・更新を推進する

■課題（経緯含む）

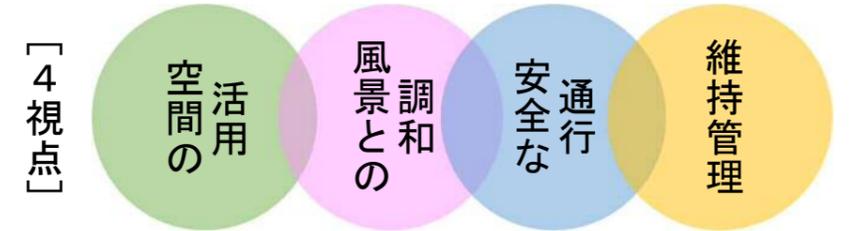
- ① 歴史・文化特性を踏まえたプロムナードとしての整備
- ② 周辺観光施設の移転や閉鎖による土地利用の変化 [宝塚ホテルの移転、宝塚ファミリーランドの閉鎖]
- ③ 周辺の集合住宅開発などによる歩行者利用の増加や移動方法の変化に伴う通行安全性 [自転車の増加]
- ④ 老朽化した道路施設の維持管理 [噴水の故障、タイルの割れ]
- ⑤ 武庫川との更なる調和・宝塚大橋周辺の新たな魅力作り
- ⑥ 既存修景施設の活用如何 [彫刻、手塚パル]

■これまでの要望書、意見（抜粋）

- ① 従前の景観を復元してほしい
- ② 40年前、市広報にて「男性の手のひらにのった女性が大空に向かって人類に愛の手をさしのべている姿」と紹介され女性蔑視として問題となったオブジェ（愛の手）の再設置は反対*
- ③ 過度な整備費用はかけないでほしい
- ④ 歩行者と自転車の通行を分けて欲しい
- ⑤ 橋銘板は残してほしい

■第1回（R3.9.6）景観審議会意見

- ① コンセプトとイメージが重要
- ② 緑の連続性を確保
- ③ 彫刻の有無ではなく、どのような空間にするのか。武庫川一帯をどのような空間にするかが重要
- ④ 人物像と抽象的な彫刻を同じ橋に乗せるにはデザイン力が必要
見たくないものを見ない権利もある
- ⑤ 橋が美しいかではなく、橋を使ってどの様に楽しみ、どの様に一番宝塚らしいと言われる周辺の景色を眺められるか
(ベンチを並べた憩いの場やカフェ席の設置はどうか)
- ⑥ 使いながらデザインしていったらどうか。皆で育てていく橋は景観的に最先端
- ⑦ これまで愛されてきた橋。全く同じように作るのは時代に合わないが、元のイメージを継承してはどうか
- ⑧ 委縮せず、思い切って若い力で、40年経った年りのフレッシュさも感じられるよう



■整備方針

1. にぎわいを育む橋

- ・宝塚南口駅から大劇場周辺施設への導きを可能とするしくみ
- ・橋詰部に多機能広場環境を整備
- ・観光プロムナード全体の調和をはかる整備
- ・にぎわいの場として歩道空間を活用できるしくみ作り

2. 立ち寄りたくなる橋

- ・宝塚の風景に調和した歩道空間
- ・宝塚の代表的景観を演出する歩道空間
- ・橋上からまわりの風景が楽しめる歩道空間
- ・安らぎを感じる「みどり」のある歩道空間

3. 利用者が安心して通行できる橋

- ・今の利用状況に対応した通行安全性の確保
- ・災害時にも頼れる安全な道路機能の確保

4. 長く使い続けることができる橋

- ・老朽化に対応したメンテナンスの実施
- ・維持管理を考慮した施設の採用と配置
- ・SDGsの推進

* 「ジェンダーの視点からオブジェ（愛の手）は撤去してほしい」の記述では、単純に裸像の設置に反対意見が出ていると捉えられるとの意見があり、第2回景観審議会資料から修正

番号	審議会意見	対応	備考
コンセプト ①	<ul style="list-style-type: none"> 第1回審議会（9月6日開催）意見とアンケート結果を踏まえた整備方針は概ね妥当 アンケートの実施によって、市民や来訪者の利用目的や思い、整備に対する希望が把握できたのは大きな成果 	<ul style="list-style-type: none"> コンセプト「景観を楽しみ、使い育てる橋」をもとに、4つの整備方針で進める 上流側：滞留空間を重視 （周辺の景観を鑑賞するために滞留できる空間を確保） 下流側：通行空間を重視 （歩行者、自転車の通行量が多いため、通行の安全を確保） 	4つの整備方針 <ol style="list-style-type: none"> にぎわいを育む橋 立ち寄りたくなる橋 利用者が安心して通行できる橋 長く使い続けることができる橋
デザイン ②	<ul style="list-style-type: none"> 宝塚らしさは優しさだと考える 花壇の線形で優しさを出すデザインもよい 宝塚らしく人やモノへ優しく、目にも優しい、触っても優しいというものになるよう留意してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 曲線を活用し、色調は周辺施設に合わせる 触れるところは天然の石材、木材を主に取り入れる 宝塚らしさについては、意見交換会においても確認する 	YR系（黄赤系）の色相を基本 曲線は、花壇、ベンチ、乱横断防止柵で活用
デザイン ③	<ul style="list-style-type: none"> （第2回景観審議会に提示のイメージ図に対し）タクティカル・アーバニズム※の場として、作り込まず、もっとシンプルに 	<ul style="list-style-type: none"> シンプルな構造を心がける 設置・撤去可能な施設とし、施設を設置しない空間を確保する 	※タクティカル・アーバニズム 市民中心の社会実験を繰り返しながら、道路や公園等の身近な公共的空間を市民にとって有益な空間へと改変していく試み
施設 ④	<ul style="list-style-type: none"> 工事前の姿に戻して欲しいという意見も多いので、かつての景観やデザインを踏襲していくという要望も軽視すべきでない これからはランニングコストの時代 	<ul style="list-style-type: none"> ベンチは再設置する 手塚パネルは従来通り床面に復元する オブジェは一部再設置する 維持管理を考慮した植栽を配置する 	アンケートや意見交換会において、相反するものを含め、様々な意見や要望が存在するため、バランスを持った基本方針に基づく施設を計画
施設 ⑤	<ul style="list-style-type: none"> 床材はレンガタイルにして欲しい レンガタイルは、高齢化を考慮し滑るため利用しない方がよい。イメージが素敵でも怖い素材 段差が出来ないようにフラットで構成することは貫いて欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> 安全を重視し、歩行部分については、現在の洗い出し舗装とする 橋梁の主構造から分離しているアルコーブ（張り出し）部分において、タイル利用による景観とする 舗装部分と高さの差が生じる場合は、躓かないように滑らかに擦り付ける 	武庫川周辺散策空間整備（宝塚駅～宝塚南口）として、統一性、景観、安全性に配慮した洗い出し舗装を選定 タイルの配色は、建設当時の色調（2色）を踏襲
施設 ⑥	<ul style="list-style-type: none"> オブジェについてどの様に考えているのか 	<ul style="list-style-type: none"> オブジェ「愛の手」は見たくない意見が一定数あること、橋上を含め、宝塚市を含めた近隣の公共施設に設置できる場所がないことから、設置は見送る 	
施設 ⑦	<ul style="list-style-type: none"> 低く座られる所を広く長く取り、あまり座る人がいなければ、その上にコンテナ花壇を乗せて改変していくという事も考えてはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ベンチは長めのデザインとし、利用者が少ない場合、コンテナの設置への改変も視野に入れる 	
施設 ⑧	<ul style="list-style-type: none"> 冬など季候の悪いときや風の強い時期のことも考えて欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> 特に橋中央部分は、風を遮ることが出来る壁構造とする 一方、車道からの景観や、下流歩道から上流側、また上流歩道から下流側の見通しを考慮し、柵構造の乱横断防止柵も設置する 	
安全 ⑨	<ul style="list-style-type: none"> 自転車専用の部分があると安心 電動自転車も増えており、歩行者と自転車の共存の仕方を検討してはどうか 車道の端は自転車では走れないので配慮してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 車道の路肩が狭いこと、また歩道に自転車専用道路の確保が困難であることから、可能な限り歩道空間を広くとり、これまでと同様の歩行者と自転車が共に利用可能な「自転車歩行者兼用道」とする 	
活用 ⑩	<ul style="list-style-type: none"> 三角地（橋詰広場）は、植栽帯を無くして、イベントが出来るように広い方がよい 	<ul style="list-style-type: none"> 植栽を設置する場合は、移動可能なタイプとする 	

番号	審議会意見	対応	備考
植栽 ⑪	・花が植わっていた方が綺麗だが手間暇が掛かりすぎるため、葉っぱの色で楽しめる低木の組み合わせが良い	・植栽について、カラーリーフを活用する ・デザイン案のような宿根草を基本としても、景観の維持には管理が大切なため、ボランティア等の協力者を探す。ただし、見つからない場合は、育ちが遅めのアベリア等行政主体でも管理可能な樹種とする	
宝塚らしさ ⑫	・賑わいは、ハードで作るのではなく、人が集まってできるもの。予算が無くともボランティアで、市民が集まって色々整備するのも宝塚らしいということになるのかもしれない	・完成後の利用や発展を考慮し、地域との協働に関する調査を実施し推進する	・造園が盛んな「山本地区」や、宝塚大橋の近隣施設である「宝塚歌劇」、「手塚治虫記念館」などに整備や管理について確認

宝塚大橋歩道空間整備

【地域との協働に関する調査】

番号	確認事項	意見、対応	備考
①	【手塚治虫記念館】 ①従前の手塚パネル復旧にあたって、従前どおり道路面への配置とするか、別の設置方法（橋中央部への集約など）がよいか、確認 ②歩道空間整備に関してのアイデア等（広告物の設置、設置物の寄贈や、イベント実施など）についてヒアリング	①（意見）従前の道路面へのパネル設置には記念館への誘導の意味があり、元通りが良い （対応）従前どおり道路面への復旧とする ②（意見）歩行者と自転車の利用の分離に足跡パネルの設置はどうか。 （対応）著作権がかかるため従前の手塚パネルのみ復旧とする	
②	【宝塚歌劇】 ①歩道空間整備に関してのアイデア等（広告物の設置、設置物の寄贈や、イベント実施など）についてヒアリング	①（意見）広告物は自社関係施設で行っている。展示物等については自社の有料施設で行っているため、現在のところ提案はない （対応）提案があれば検討する	
③	【山本地区（花卉園芸協会、あいあいパーク）】 ①歩道空間整備に関して、アイデア等（植栽についての提案や、協働の取組（植栽の管理等）、イベント実施など）についてヒアリング	①（意見） 【花卉園芸協会】 … 植栽の提案「フィリフェラオーレア」「ベルサイユのばら」等 【あいあいパーク】 … 橋上の環境に適した植栽の提案のほか、イベント実施やバナー設置について、常時は難しいが、依頼があれば検討する （対応）植栽の提案について、選定の際に参考にする。イベント実施等については、今後引き続き協議を行う	【兵庫県立淡路景観園芸学校】 低管理は出来てもメンテナンスフリーはない。きれいに植栽を維持するためには地域の管理者が必要であり、行政が管理するならば、管理できるレベルの植栽を考えた方がよい。
④	【地域住民団体】 ①意見交換会の場や、近隣自治会で植栽の管理実績のある自治会に対し、協働の取組について提案がないかを確認	①（意見/対応）現在のところ、提案や希望なし 引き続き、積極的な活用を求め、地域とのパートナーシップによる活動の推進を図る	山本山手まちづくり協議会 宝塚第一小学校区まちづくり協議会 宝塚市花のみち自治会

番号	交換会意見	兵庫県、宝塚市の考え方	備考
①	<ul style="list-style-type: none"> 宝塚大橋建設当時のコンセプトを受け継いでほしい。 以前に近い形のデザインとしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺環境の変化（宝塚ホテルの移転、宝塚ファミリーランドの廃止、タワーマンションの増加）を踏まえ、周辺の景観、歩道利用状況、通行安全性、整備後の維持管理を考慮し以下とします。 従前の施設として「植栽帯」、「像（渚、鷗）」、「ベンチ」、「手塚パネル」を復旧 要望の多いタイル舗装については、通行性、安全性の観点から通行部分を避け、アルコーブ部で整備（下記詳細） 	
②	<ul style="list-style-type: none"> 四阿（あずまや）について 	<ul style="list-style-type: none"> 橋梁周辺の立地状況の変化から、自転車を含めた通行者が増加しており、従来より広い歩道幅員が必要であることや、四阿の柱が通行の支障となった接触事故もあることから、安全性、通行性を考慮し復元は行いません。 	
③	<ul style="list-style-type: none"> パブリックアートの捉え方 	<ul style="list-style-type: none"> 作家の制作意図が受け手にそのまま伝わるものではなく、時代により受取られ方も変化します。加えて、文化芸術の振興の観点から「捉え方」を示すことは何らかの基準を設けることであり、それにより一部の作品を否定するような事は好ましくないと考えます。 	
④	<ul style="list-style-type: none"> 「愛の手」像撤去について 	<ul style="list-style-type: none"> 見たくない意見が一定数あること、橋梁を含め、宝塚市を含めた近隣の公共施設に直ちに設置できる場所がないことから、設置を見送ります。 	
⑤	<ul style="list-style-type: none"> 舗装について、従前のタイル舗装としてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> タイル舗装については、下記課題があります。①安全性の課題…「雨天時に滑りやすい」「歩行時に引っかかることがある」②耐久性の課題…「薄いことから割れやすい」「橋の振動に起因した割れが生じる」③維持管理面の課題…「修繕にコストがかかる」以上の課題があることから歩行者、自転車の動線についてはタイル舗装を避け、洗出し舗装を選定します。 なおタイル舗装を望む声があることから、動線外であり、橋梁の主構造から分離されているアルコーブ部分（4箇所）についてタイル舗装を採用します。 （参考）武庫川周辺散策空間整備事業においては、統一性、景観、安全性に配慮した工法として、大橋を含むエリア全体において洗出し舗装が選定されています。 	
⑥	<ul style="list-style-type: none"> 歩道が広く、自転車が速い速度で通行する。自転車通行者に対して、安全対策（注意喚起など）をすべき。 自転車専用レーンが欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通行者への注意喚起として、看板設置、路面標示（シール、平板ブロック）等が考えられます。看板は景観を損ねる可能性があること、シールは劣化が早いことから、平板ブロックを舗装面に埋め込み、自転車の走行マナーの啓発を行います。（表示例：歩道は歩行者優先） 橋梁前後を含め自転車専用レーンの幅員が確保できないため、従前と同じ自転車歩行者兼用道とします。 	
⑦	<ul style="list-style-type: none"> 植える樹種や空間の使い方等について、植木産業の地である山本地区と連携してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 山本地区の植木産業関係者（宝塚市花き園芸協会、あいあいパーク）にヒアリングを行いました。ローメンテナンスかつ橋の上の環境に適した植物（常緑低木・常緑多年草など）について提案いただきました。 	
⑧	<ul style="list-style-type: none"> 低管理でお金のかからないものを植えてはどうか（リーフ系など） 	<ul style="list-style-type: none"> 低木類、地被類を検討しています。 	
⑨	<ul style="list-style-type: none"> 石の表面に写真をプリントするような意匠を施工してほしい。昔の橋の写真など、歴史を感じられるものを欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> 昔の写真など、過去の歴史を感じられる建造物の設置を検討しています。 	
⑩	<ul style="list-style-type: none"> 橋詰広場の活用方法として、百貨店のキッチンカーに来てもらったり、市の宣伝、広報となるフォトスポットとして「BE TAKARAZUKA」の様な大型モニュメントを設置するなどしてはどうか。 地域のイベントにおいて、活用できると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> タクティカルアーバニズムの場として、市民や企業が主体となり様々な取り組みができるスペースにしたいと考えている。 例として、地域主体のイベント等での活用やライトアップ、百貨店等の企業におけるキッチンカーを用いた訪問販売、イベント時に併せた植木等の販売、アート作品の展示など、様々な利活用が考えられる。 	

コンセプト：「景観を楽しみ、使い育てる橋」

「景観形成と通行安全の確保」

- ・上流側は滞留空間を重視
- ・下流側は通行空間を重視

「地域の意見を踏まえた整備」

- ・宝塚景観審議会による有識者との意見交換
- ・アンケート調査による意見聴取（12/27～1/17 実施：約 1,900 件回答）
- ・意見交換会による意見聴取（5/29 開催予定）

「パートナーシップによる景観の保全・育成」

- ・地域、宝塚歌劇、手塚治虫記念館、植木産業等との協働の取組を協議、検討

整備方針

1. にぎわいを育む橋

- ・南口駅から劇場方面に導くしくみ
- ・橋詰部に多機能広場環境を整備
- ・観光プロムナード全体の調和をはかる整備

2. 立ち寄りたくなる橋

- ・宝塚の風景に調和した歩道空間
- ・宝塚の代表的景観を演出する歩道空間
- ・橋上からまわりの風景が楽しめる歩道空間
- ・安らぎを感じる「みどり」のある歩道空間

3. 利用者が安心して通行できる橋

- ・今の利用状況に対応した通行安全性確保
- ・災害時にも頼れる安全な道路機能の確保

4. 長く使い続けることができる橋

- ・老朽化に対応したメンテナンスの実施
- ・維持管理を考慮した施設の採用と配置
- ・SDGsの推進

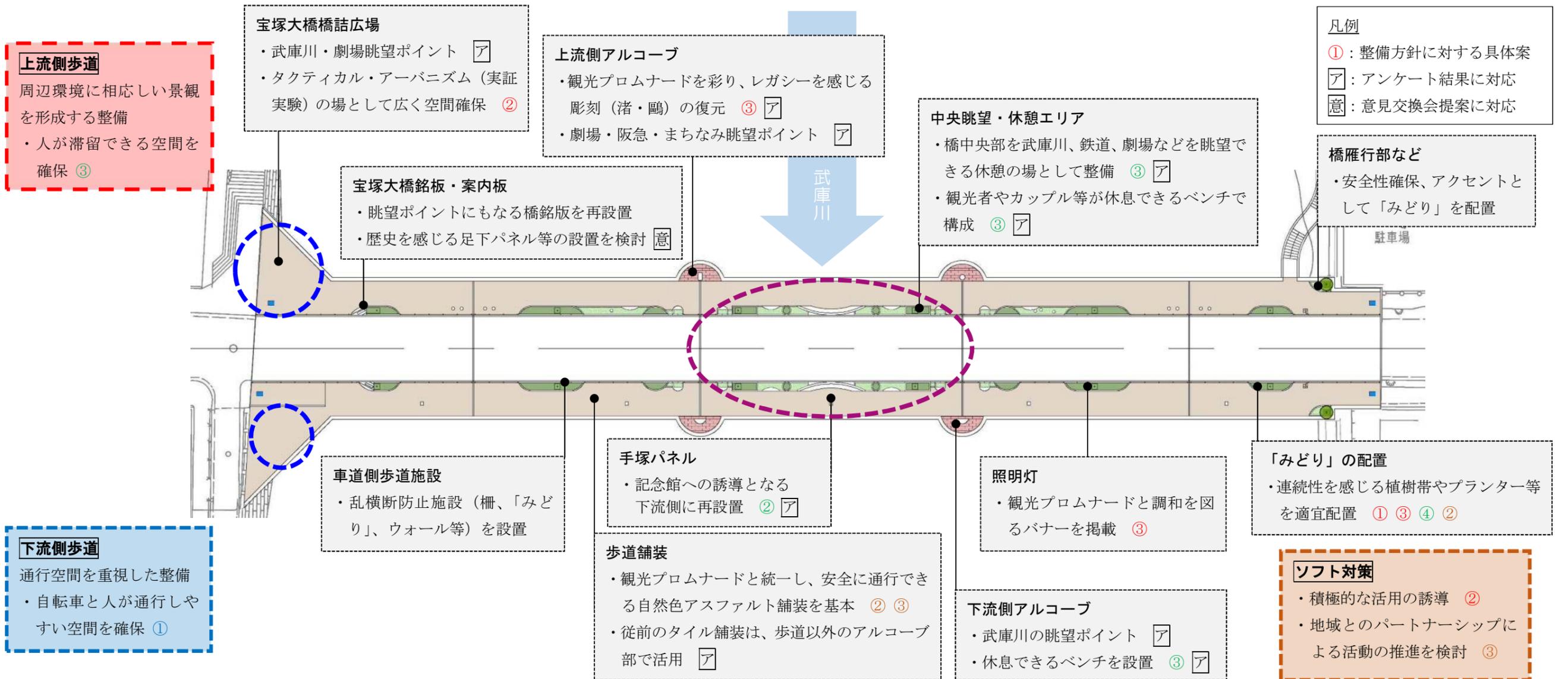
具体策

- ①連続性を感じる橋上緑地帯等の整備
- ②タクティカル・アーバンズム（実証実験）の場としての空間確保
- ③「みどり」・彫刻・バナー等による調和

- ①風景になじむ色彩による調和
- ②彫刻「渚」、「鷗」や手塚パネルの再設置
- ③眺望を楽しみ、休憩談笑できるベンチ等の設置
- ④維持管理を考慮した「みどり」の配置

- ①周辺利用者の増加を考慮した歩道幅の確保
- ②橋梁の補修による長寿命化と耐震化

- ①橋梁の維持修繕と点検の実施
- ②修繕しやすい舗装材や維持管理を考慮した「みどり」の活用
- ③歩道の拡幅による交通の安全性改善、災害に対する強靱さの向上、地域とのパートナーシップによる活動の推進



<上流側> 滞留空間を重視
 (宝塚大劇場や阪急電車など周辺の景観を鑑賞するために滞留できる空間を確保)



橋詰め広場
 ・タクティカル・アーバニズムの場の創出



舗装
 ・「観光プロムナード」の歩道と同一の自然石舗装



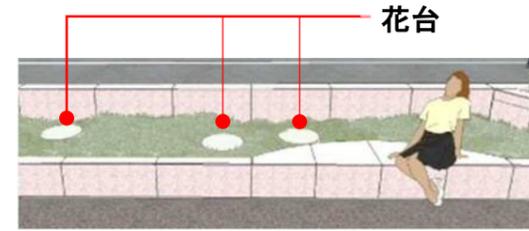
センターウォール
 ・眺望エリアの創出



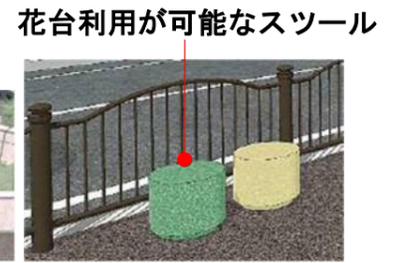
彫刻「渚」



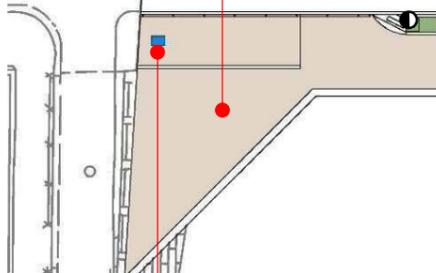
彫刻「鷗」



花台・ベンチ
 ・植栽帯と連続し、曲線を活用
 ・タクティカル・アーバニズムの場の創出



花台利用が可能なスツール



歩行者優先パネル
 ・自転車の走行マナー啓発のため、橋面に設置



手塚パネル



手塚パネル



手塚パネル



手塚パネル



手塚パネル



照明灯

植栽帯
 ・カラーリーフや常緑樹種を配置
 ・曲線を活用し色調は周辺施設にあわせる



アルコーブ部(レンガタイル舗装)
 ・眺望及び休憩用としてベンチを設置



凡 例	
	自然石舗装
	レンガタイル舗装
	照明灯(既設)
	中木
	低木
	地被

<下流側> 通行空間を重視
 (歩行者、自転車の通行量が多いため、通行の安全を確保)



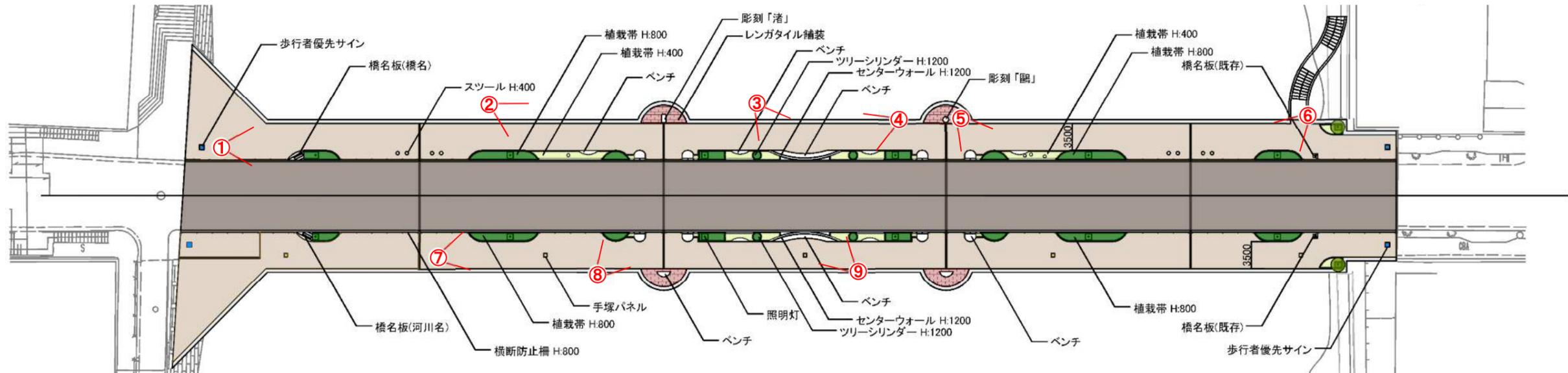


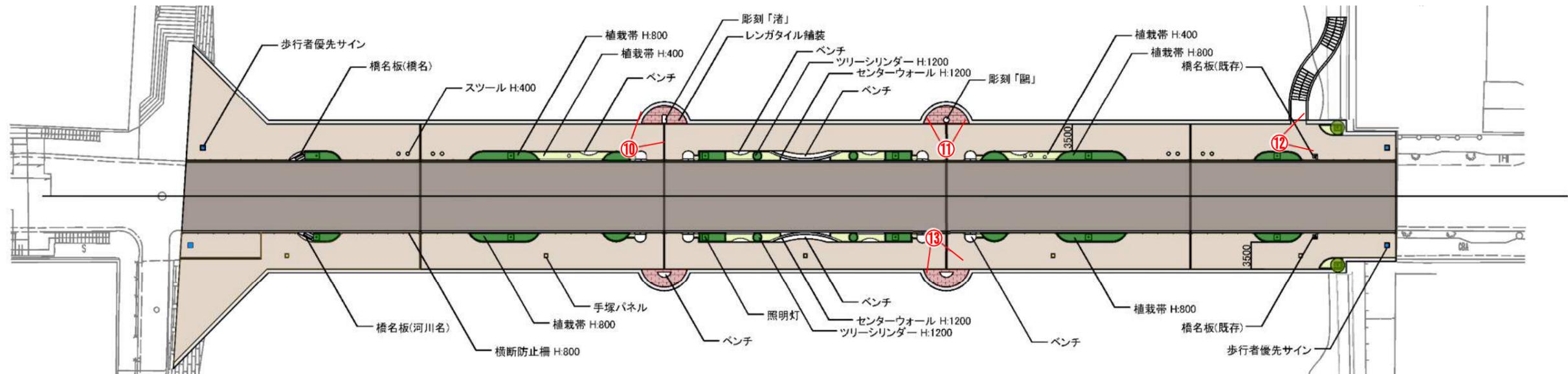


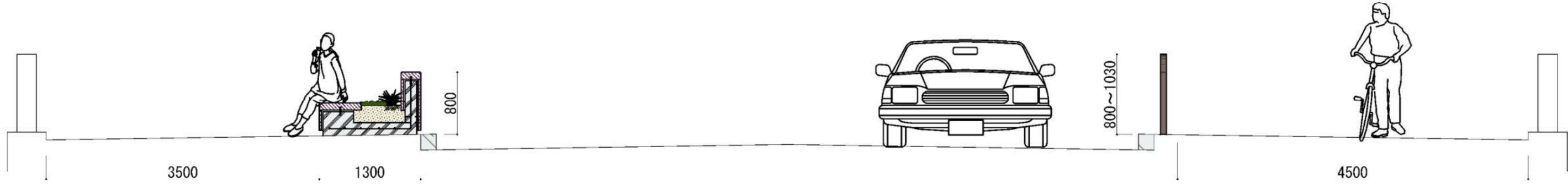
上流側



下流側



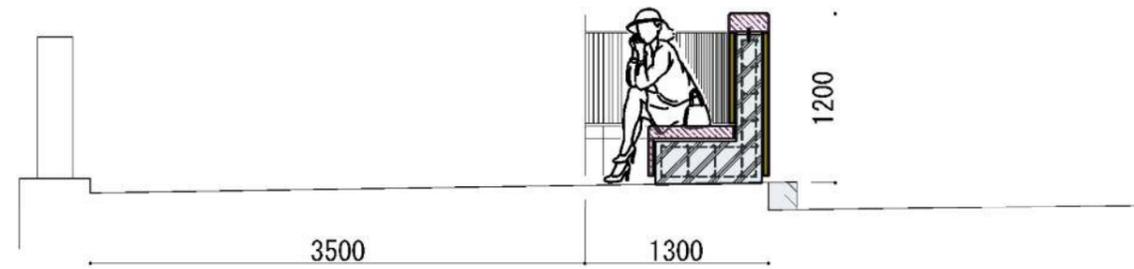




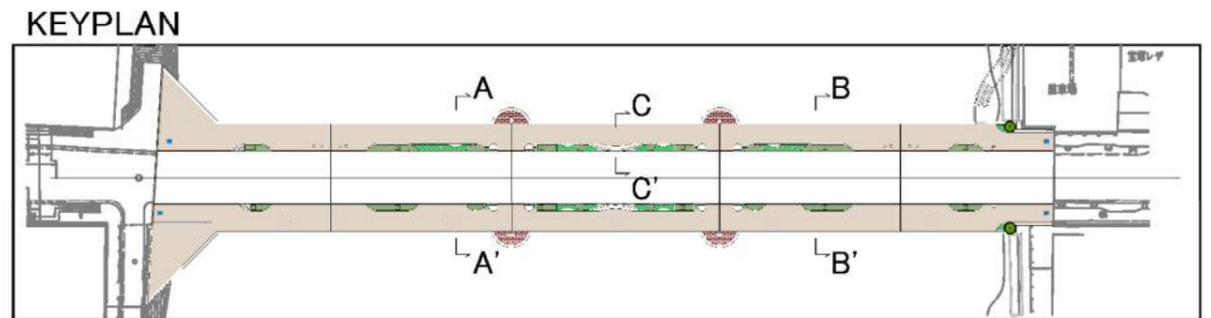
A-A' 断面図



B-B' 断面図

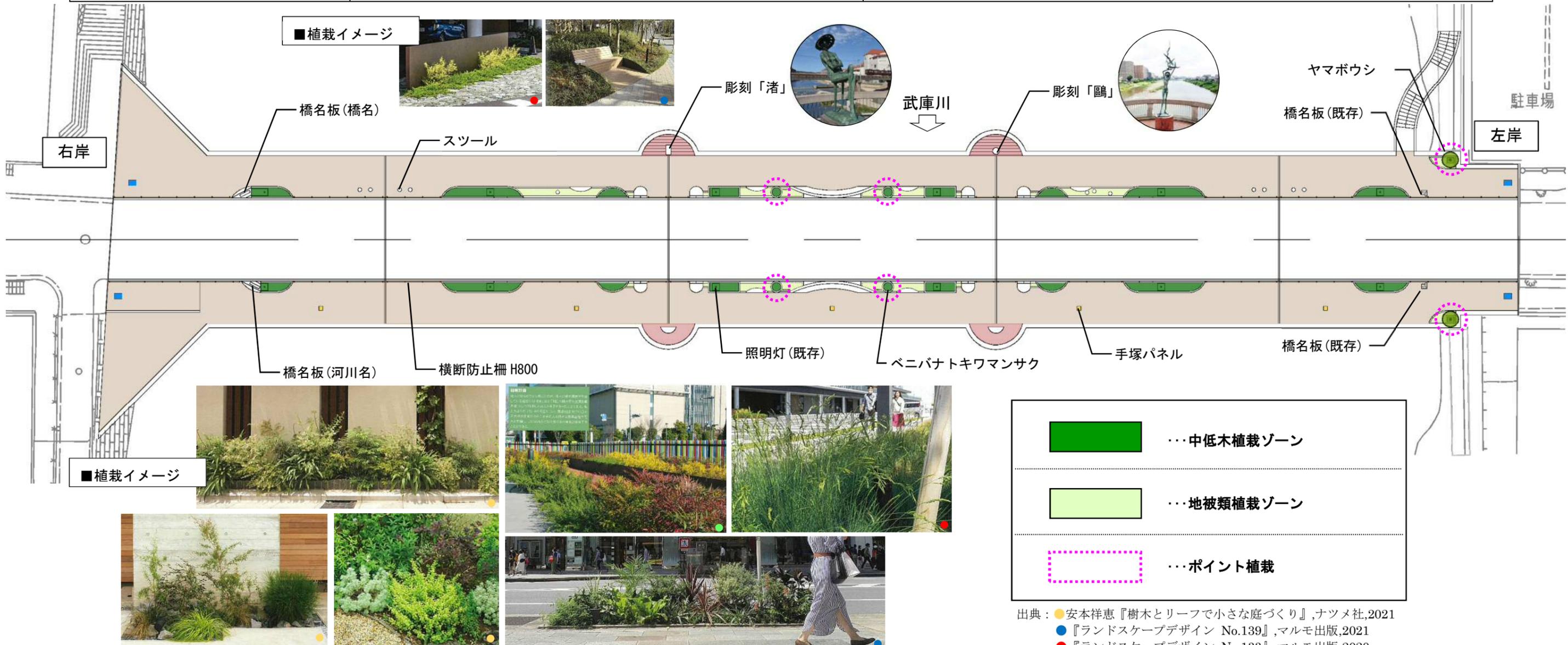


C-C' 断面図



デザイン案のような宿根草を基本としても、景観の維持には管理が大切なため、ボランティア等の協力者を探す。ただし、見つからない場合は、育ちが遅めのアベリア等行政主体でも管理可能な樹種とする。

ゾーン名称	内容	植栽構成・候補樹種
1. 中低木植栽ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ●車両の景観圧緩和や緑の連続性を確保する植栽 ●葉の色使いとボリュームで演出できる樹種構成 	<ul style="list-style-type: none"> ●多年生カラーリーフ（オーナメンタルグラス等）と常緑低木主体 ・ニューサイラン、コルディリネ、カレックス類、フェスツカ・グラウカ、シロタエギク、ビヤクシン類（フィリフェラオーレア、パー・ハーバー等）アガパンサス、アルメリア、マサキ（キンマサキ）、ベニバナシャリンバイ、ホソバヒラギナンテン、オタフクナンテン等
2. 地被類植栽ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ●構造物基礎を遮蔽する修景機能を持った植栽 ●乾燥に強く、薄い土壌厚さでも生育可能な樹種構成 	<ul style="list-style-type: none"> ●常緑地被類主体 ・ヘメロカリス、フィリヤブラン、ジャノヒゲ、シバザクラ、ヘデラ・ヘリックス、マツバギク、セダム、芝等
3. ポイント植栽	<ul style="list-style-type: none"> ●宝塚らしいシンボリックで目を引く演出植栽 ●葉色と花で魅せる強健な樹種構成 	<ul style="list-style-type: none"> ●中木程度までで表現 ・ヤマボウシ(市の木)、ベニバナトキワマンサク



出典：●安本祥恵『樹木とリーフで小さな庭づくり』,ナツメ社,2021
 ●『ランドスケープデザイン No.139』,マルモ出版,2021
 ●『ランドスケープデザイン No.133』,マルモ出版,2020
 ●『ランドスケープデザイン No.125』,マルモ出版,2019

中低木植栽ゾーン（土壌厚：約 60cm 以上）

ポイント植栽



ヤマボウシ（市の木）



ベニバトキマンサク



マサキ



キンマサキ



ホリバヒラギナンテン



ベニバトキマンサク



オタフクナンテン



アガパンサス



フィリフェラオーレア



バー・ハーバー



ブルースター



マザー ローデ



アルメリア



シロタエギク



ニューサイラン



コルディリネ



カレックス"エバ"ゴールド"



カレックス"キウイ"



カレックス"ブ ロス"フォーム"



フェスツカ・グラウカ



ローズマリー



グミギルドエッジ



アベリア"カレイド"スコープ"



アベリア"コンフェッティ"



アベリア"ホープ"レイズ"

出典：●日本緑化センター・日本植木協会編『緑化樹木ガイドブック』,建設物価調査会,1999
 ●日本植木協会編『新樹種ガイドブック』,建設物価調査会,2000
 ●積水ハウス編『庭木セレクトブック』,積水ハウス,2012
 ●大石二郎『グリーントータルプランツブック』,エフジー武蔵,2022
 ●鈴木基夫,横井政人『山溪カラー名鑑 園芸植物』,山と溪谷社,1998

地被類植栽ゾーン（土壌厚：約20cm）



ヘメロカリス“ステラ・デ・オロ”



ファイリヤブラン



ジャノヒゲ



シバザクラ



ヘデラ・ヘリックス



マツバギク



セダム類(キノマンネグサ)



ツルマサキ



ピンカマジョール



コウライ芝



野芝

出典：●日本緑化センター・日本植木協会編『緑化樹木ガイドブック』,建設物価調査会,1999
 ●日本植木協会編『新樹種ガイドブック』,建設物価調査会,2000
 ●積水ハウス編『庭木セレクトブック』,積水ハウス,2012
 ●大石二郎『グリーントータルプランツブック』,エフジー武蔵,2022
 ●鈴木基夫,横井政人『山溪カラー名鑑 園芸植物』,山と溪谷社,1998

【アルコーブ部】
改修前のレンガタイル舗装（通路部）と同パターン
●使用割合
焼き過ぎレンガ（濃い）・・・3
普通レンガ（薄い）・・・1

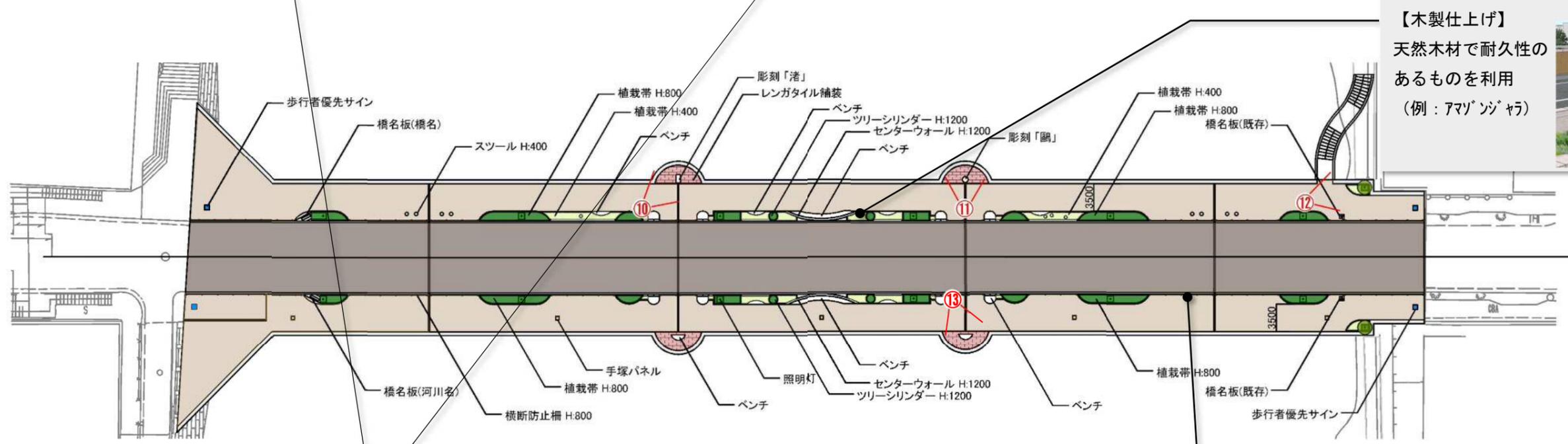


【橋詰め部植栽】
中木（H2.5m程度）とし、
市木であるヤマボウシを予定

【植栽帯等の壁面仕上げ】
花崗岩 桜系
パーナー仕上げ
（板石貼り+笠石）



【木製仕上げ】
天然木材で耐久性のあるものを利用
（例：アマゾンジャラ）



【彫刻台座、ベンチ】
アルコーブ部共通で、レンガタイル+石材（花崗岩）を使用することで統一感を演出



【横断防止柵】
高欄、大劇場の窓、既存柵と同様の凸の曲線ラインで統一
（色はダークグレー、鋼製）

